

これからの備えて ～新年への思い～

皆様には新年のお慶びを申し上げます。

さて、昨年開催された平昌オリンピックではカーリングのLS北見が大活躍し、そのときの「そだね～」が流行語大賞に選ばれるなど、地元北見は大いに盛り上がりました。

一方、昨年暮れにその年を表す漢字として「災」が選ばれたとおり、災害関連の話題も多かったように思います。1月から3月にかけての豪雪被害から始まり、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨災害や40度を超える災害級の酷暑日、8月から9月の台風など多くの災害が我が国を襲いました。その中でも9月に北海道を襲った胆振東部地震は道央地区に大きな被害をもたらし、全道をブラックアウトの状態に至らしめたことから記憶に強く残っているのではないのでしょうか。

これら災害に関して平成28年に国連大学から世界171カ国を対象とし、地震、台風、洪水、干ばつ、海面上昇の5種類について災害に見舞われる可能性や対処能力を評価した「世界リスク報告書2016」が発表されました。この中で我が国は「自然災害に見舞われる可能性」では世界で4位と高位にある中、その対策が講じられていることから「脆弱性」では低位となり、総合評価では17位とされています。しかしながら欧米先進国の多くは100位より下位であることから、先進国ではダントツにそのリスクが高位にあることがわかります。政府は平成25年12月、国土強靱化基本法を策定し、大規模自然災害等に備えた国づくりを進めることとしました。そして昨年12月に「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を閣議決定し、2020年度までに約7兆円、今年度二次補正では約1兆円を超える

橘 邦彦 (たちばな くにひこ)

技術士(建設/総合技術監理部門)

オホーツク技術士委員会

代表幹事



規模の補正によりその進捗を早めようとしております。しかしながら自然相手ということもあり、予期せぬ事態の発生が懸念されることから、官民一体となった対策を図っていく継続的努力が必要かと思えます。そのような中、北海道本部においても防災委員会を中心に道内5つの地方委員会と連携した「北海道本部防災支援連絡会議」が昨年立ち上がり、平素からの防災支援に向けた活動を始めたところです。オホーツク技術士委員会においてもその活動の一環として、北見工業大学および北海道電力にご協力いただき、平成31年2月8日に昨年の北海道胆振東部地震をテーマとした技術講演会を予定しているところです。これを機に、オホーツク地域でも防災、減災へのさらなる関心と備えが高まることを期待するところです。

今年の干支は「亥(イノシシ)」です。亥は十二支最後の干支として、終わりとともに成長に一区切りを付け、あらたな始まりに向け準備を行う年といわれています。偶然にも今年は平成の終わりと新たな元号のスタートの年です。今年開催予定のアジア初ラクリンワールドカップ、来年の東京オリンピック、さらには2025年大阪万博、2026年愛知名古屋アジア競技大会など、我が国においては世界的なビッグイベントを控えその準備が急がれる中、災害被災地の復興や防災、減災に関する事業なども盛んに進められると思います。これまでの経験や教訓をもとに心機一転、技術士としてふさわしい活動ができるスタートの年にしたいと思うとともに、皆様にとつて最良の年となりますことを祈念いたします。